

4年で変革、次世代へ



重責ひしひし

役員経験もない一会員から富山商工会議所女性会の会長に就き、わずか2年で今度は県の連合会長に就任した。19年にわたり会長を務めてきた前任の高澤規子氏から後を引き継ぐ重責をひしひしと感じている。

一会員だったころには、お世辞にも女性会の活動に熱心だったとは言えない。名簿には名前を連ねていたが、社業が忙しい中で会合にはほとんど出席していなかった。「何を置いても参加したいという気持ちになれませんでした」。自身の過去は、裏を返せば今の女性会が解決すべき課題にも通じる。

実際、今でもめったに顔を合わせない会員はいる。

富山県商工会議所女性会連合会長



うめだ・ひろみ 富山市出身。共立女子短大卒。1988年富山メッキ(現ユニゾーン)に入社、91年専務、99年から社長。富山商工会議所女性会

長。富山経済同友会幹事。今年6月から県商工会議所女性会連合会長。61歳。

新規加入も少なく、会員数は減少傾向にあるのが現実だ。「若い世代を呼び込む魅力ある企画が必要なんです」。目指すのは、会員が研鑽を積める場を築き上げることだ。

地域の商工業者が集まる組織の役割は、積み重ねてきた経験と、そこから得た精神を若手に継承していくことだと信じる。「経験に勝るものなし。直接、顔を合わせ、実体験を伝えることで、次世代の成長を助けていきたい」。

自身は企業トップとして裁量を振るう立場にある

が、会員の中にはパートナ―として経営者である夫を支える立場の人も多い。仕事を離れば当然、良き伴侶、母としての役割も求められる。「女性ならではの細やかな気配り、感性を伸ばす取り組みも忘れませぬ」。それぞれの企業はもちろん、家庭や地域社会にあって、会員が女性として輝けるよう、磨きをかけていくつもりだ。

時間かけずに

頭に思い描いている取り組みは多いが、実現するまでにそれほど時間はかけた

若手に経験伝える場に

くない。就任と同時に決めたのは、任期を3年から2年に短縮することだった。総会の場では、2期4年できっぱりと身を引き、次の世代にバトンタッチすることを明言した。「時代の変化は激しい。組織の改革を進める歩みも急がないといけません」。

会長となって、周囲からは女性会にかける期待を強く感じている。会員からは「全力で支えていきます」と後押ししてくれる声も聞く。変革を成し遂げ、後を託す世代を育てる任務は待ったなしだ。(岡部道典)

梅田 ひろ美さん